

## 2019年度 同志社大学大学院 司法研究科

### 後期日程入学試験問題 法律科目試験

#### (商 法)

---

次の（設例）を読んで、問（1）から（3）に答えなさい。

（設例）

1. 甲社は、その定款に、株式の譲渡には取締役会の承認を要する旨を定めている取締役会設置株式会社である。甲社の発行済株式総数は1,000株である。
2. 甲社株式100株を有する株主Aは、甲社に出資した資金を回収して自宅の修理に使うために、甲社株式を売却したいと、甲社の代表取締役Bに相談した。Bは、Aに対して、甲社株式の買主をAが自ら探す方法と、甲社が株式を買い取る方法があると答え、いずれでも対応するので、都合のよい方を選んでほしいと伝えた。Aは、甲社株式をCに買い取ってもらう案を念頭に置いていたが、Cとの交渉が成立しない場合に備えて、甲社に直接買い取ってもらう方法にも興味を持っている。
3. 甲社は、無資力であるとまではいえないが、甲社がAから甲社株式100株を買い取るだけの十分な資金があるかどうか、慎重な検討を要する状態であった。

問（1）（配点：15点）

AとCの間でなされた甲社株式の譲渡につき取締役会の承認を得ていないとき、この譲渡の効力を説明しなさい。

問（2）（配点：15点）

甲社が無資力とはいえない場合でも、甲社の財産状態によっては、甲社株式を買い取ることができない、とは、会社法上、どういうことか。また、そのような規制を会社法が設けている趣旨は何かを説明しなさい。

問（3）（配点：20点）

Bは、甲社の財産状態などをよく調べずに、また、株主総会や取締役会を開くことなく、甲社を代表して、Aの有する甲社株式100株を、適正な価額と考えられる計100万円で買い受けた。買受けの時点における甲社の分配可能額は50万円であったとき、Bの甲社に対する責任を検討しなさい。